

令和5年度第3回桑員地域医療構想調整会議 議事概要

- 1 日時：令和6年3月6日（水）19：30～20：05
- 2 場所：オンライン（Zoom meetings）
- 3 出席者：西村委員（議長）、田中委員、青木大五委員、関戸委員、小林委員、中村委員
代理、相田委員、佐藤沙未委員、青木孝太委員、佐藤久美委員、堀田委員、出口委員、黒田委員、竹田アドバイザー

4 議題

1 病床関係について

- (1) 2025年に向けた各医療機関の具体的対応方針の策定・検証・見直し等について（資料1）
- (2) 桑員区域における病床整備について（資料1-2）

2 在宅関係について

- (1) 第9期介護保険事業計画における追加的需要（介護施設分）見込量について（資料2-1）
- (2) 第8次医療計画（在宅医療対策）積極的な役割を担う医療機関の位置づけについて（資料2-2）

3 外来関係について

- (1) 紹介受診重点医療機関について（資料3）

5 内容

1 病床関係について

- (1) 2025年に向けた各医療機関の具体的対応方針の策定・検証・見直し等について（資料1）

<事務局から説明>

- 公立病院経営強化プランについて、各公立病院の最終案と前回資料からの変更点等について説明する。
- 各医療機関の具体的対応方針に係る前回資料からの変更点等を確認し、これまでの協議内容を踏まえつつ、とりまとめを図る。
- 第8次医療計画における基準病床数の変更点とそれに伴う今後の病床整備の際の協議方法について説明する。

(2) 桑員区域における病床整備について（資料1-2）

<事務局から説明>

- 特例病床制度を活用した追加的な病床整備の取りやめについて報告する。

<主な質疑等>

- 私は、他の医療圏の地域医療構想調整会議に出ているが、桑員地区は地域の連携、病床の配分、機能的な配分について比較的うまくいっているのではないかと思う。

(資料1について、委員全員が了承した。)

2 在宅関係について

(1) 第9期介護保険事業計画における追加的需要(介護施設分)見込量について

(資料2-1)

(2) 第8次医療計画(在宅医療対策)積極的な役割を担う医療機関の位置づけについて

(資料2-2)

<事務局から説明>

- 地域医療構想に伴い療養病床から生じる追加的需要について、在宅医療や介護サービスにおいて対応する部分の考え方や各保険者の対応について説明する。
- 在宅医療において積極的な役割を担う医療機関の医療計画への掲載方法や今後の調査方法について説明する。

<主な質疑等>

○ 前回は意見を言ったが、在宅医療に関して、やはり今回も医療機関のことしか書いていない。大きな病院、総合医療センターとかは、直接在宅医療をやるわけではなく、個人の開業医が在宅をやっている。しかし、ちょっとこけて後頭部をぶつけたとか、熱が出たとか、そういうときすべてに、地域、個人の開業医が往診に行くのはちょっと無理がある。そのため、訪問看護と訪問介護を充実して、医療従事者としての目から見てもらって、これは救急車を呼ばないといけないとか、朝まで待ってもいいとかそういうことをしないと、在宅医療が充実されない。

⇒ 今回の資料についてはこのような説明になっているが、医療計画の在宅医療の部分については、そういった訪問看護の充実とかの部分も記載をしておき、医療機関だけではなくて、訪問看護と介護の事業者、ACPの推進といったものも進めていきたいと考えている。

○ この地域では訪問看護の数は徐々に増えてきたが、訪問介護は人が増えない。給料の面とか、人数が少ないとか、そういうところもふまえたことを言ってもらいたい。在宅医療が増えてきたときに、どこも診にいけなくなると、すぐに救急車を呼ぶので、しかも救急病院に行けば帰ることができなくて、救急病床が減ったところに、医療の混乱が起こるはずだと思っている。だからいち早く訪問介護、訪問看護の充実をお願いしたい。

3 外来関係について

(1) 紹介受診重点医療機関について(資料3)

<事務局から説明>

- 紹介受診重点医療機関を選定するにあたり、令和5年度外来機能報告の結果に基づき、意向を示す医療機関の基準の充足状況等について説明する。

<主な質疑等>

○やはりこれから在宅医療がどんどん増えてくると、その対応が、診療所の先生だけではなかなか難しいところがあって、在宅看護とか、在宅介護とかその辺も、大事だと思うが、もう1つ、やはり夜間の対応がこの地区でもそれから鈴鹿、亀山地区でも非常に大きな問題になっている。そこをどうしていくか、今後しっかり考えていかないと、在宅医療もそのうちに頭打ちになってしまうだろうと、危惧されている先生方、あるいは病院の先生が多かったが、前医師会長の際に、実は桑名市総合医療センターで、在宅診療科を作り、夜間対応し、救急車を呼ぶのを少なくしたいと、内科の医師2人が言ってきた。私は非常にいいなと思い、将来は桑名市総合医療センターの在宅患者だけではなく、医師会の先生方あるいは介護施設の患者さんを診ていくようにしたいと思う。事情により、今この診療科も頓挫しているが、ただいま大学の救急の今井先生に来てもらい一緒にやるということで、何とかして続けていこうと話している。

(資料3について、委員全員が了承した。)

以上